# 鎌高新聞

発行　神奈川県立鎌倉高等学校　校長室

令和４年　３月 10 日　　第 11 号

**日坂同窓生シリーズ　第２回**
**鎌倉市役所教育文化財部生涯学習課**
**次長兼課長　瀬谷　公重　様**

鎌高生の皆さんこんにちは。

私は昭和 59 年３月に卒業、その後は、横浜国立大学に進学、卒業後は鎌倉市役所に奉職し、30 数年になる瀬谷公重（せやきみえ）と申します。

高校時代の思い出は、キラキラと光る海、友人との放課後、今はなくなってしまいましたが、校門を出て右手にあった「にっさか」での部活後の友人との買い食い（笑）でしょうか。

ところで、市役所に皆さんはどのようなイメージをもたれていますか？

安定、定時退庁、暗くて地味といったイメージでしょうか？

私も入庁前はそういったイメージをもっていましたが、早々に見事に裏切られました。

市役所はデパートのようなもので、多種多様な業務があり、異動の度に新たな驚きがあります。共通して言えるのは、全て市民のための業務であり、顧客は鎌倉市でいえば 17 万人になります。

私も今日まで様々な業務に携わってきましたが、ごみの有料化（当時は、戸別収集もセットでしたが）の立ち上げの４年間は、心に刻まれる数多くの出会いに恵まれました。

ごみを排出しない家庭というのは、極々限られており、多くの市民に等しく影響が及ぶことから、市長選挙でも焦点になる大きな取組でした。

そのため、市民の皆さんの理解を得るための説明会を夜間、土日問わず、連日開催してきました。

当たり前のように無料で排出できたものが有料化になるということで、当然、多くの反対のご意見がある中での説明会だったので、心が折れそうになる時も度々ありました。

そんな時の支えは、一緒にチームを組んでいたメンバーとの絆と、当初は声高に反対していた市民の中で、途中から理解を示してくれるようになり、最後は、応援してもらえるようになった人の存在でした。

何故、声高に反対していた人が応援してくれるようになったのでしょうか。

後日、応援してくれるようになった人から言われたのは、「あなたたちが、目標に向かって日々、一生懸命に取組んでいる姿をみて、応援しようと思った。」という言葉でした。

特別なことではなく、日常が評価されるんだ、と気付いた時、喜びよりも緊張感の方が大きく、気を抜いたらいけない、何気ない一言や行動が信頼関係を左右する、という日常の重みに身が引き締まる思い、その時の感覚は今でも忘れることができません。

鎌高は、合唱祭や文化祭、体育祭と多くの行事があり、よりよい成果を出すために取組んでいると思います。当日、期待する成果を達成することは素晴らしいことですが、大切にしてもらいたいのは目標に向けて取組んできた小さな日々の積み重ねがあっての結果だということです。

学業も基礎の積み重ねが大切と言われるように、日常の積み重ねが、成果に繋がり、皆さんの人となりにも繋がります。

辛い時も嬉しい時もキラキラと光る海や緑が応援してくれる、そんな、恵まれた環境を満喫しつつ、新たな次のステージを見据え、限られた高校生活の日々を丁寧に重ねていただきたいと思います。応援しています。

## 本校と鎌倉市

「日坂同窓生シリーズ」の第２回は、鎌倉市役所教育文化財部生涯学習課次長兼課長　瀬谷　公重　様(昭和59年３月　第35回)に執筆いただきました。

本校の創立は昭和３年(1928年)に遡ります。本校は当時の鎌倉町が昭和天皇の即位記念事業として鎌倉実科高等女学校として５月５日に開校されました。同年、鶴岡八幡宮境内内に鎌倉国宝館も開設されています。本校は、その後、鎌倉町が腰越町と合併して市制を施行し、鎌倉市になって市立、さらに県立に移管され現在の神奈川県立鎌倉高等学校となりました。そういう点では、本校と鎌倉市には切っても切れない関係があるのです。

本校は現在まで90余年の歴史を持つ伝統のある県立高校です。あと６年で創立100年を迎えます。本校の伝統を受け継ぎ、育てていくのは、生徒の皆さんです。本校から巣立って社会の各界で活躍することが、本校の150年、200年と歴史を重ねていくことに繋がるのです。